

平成26年4月4日に埼玉県さいたま市で発生した突風について
(気象庁機動調査班による現地調査の報告)

4月4日15時20分頃、さいたま市桜区宿(しゅく)から中央区上峰(うえみね)にかけて突風が発生し、住家の屋根瓦のめくれなどの被害が発生しました。

このため5日、熊谷地方気象台は職員を気象庁機動調査班(JMA-MOT)として派遣し、現地調査を実施しました。

結果は以下のとおりです。

(1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、竜巻の可能性が高いと判断した。

(根拠)

- ・ 被害の発生時刻に被害地付近を活発な積乱雲が通過中であった。
- ・ 被害や痕跡は断続的であるが帯状に分布していた。
- ・ 被害や痕跡から推定した風向に一部収束性がみられた。
- ・ 激しい風はごく短い時間であったという証言が複数あった。

(2) 強さ(藤田スケール)

この突風の強さは藤田スケールでF0と推定した。

(根拠)

- ・ 住家の屋根瓦のめくれが複数あった。
- ・ アンテナの破損が複数あった。

* この資料は、速報としてまとめたものですので、後日、内容の一部訂正や追加をすることがあります。

本件の問い合わせ先
熊谷地方気象台 防災担当
電話 048 - 521 - 5858

参考資料

F スケール（藤田スケール）とは

F スケール（藤田スケール）とは、シカゴ大学の藤田哲也により 1971 年に考案された風速のスケールです。

F0： 17～32m/s（約 15 秒間の平均）

テレビアンテナなどの弱い構造物が倒れる。小枝が折れ、根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。

F1： 33～49m/s（約 10 秒間の平均）

屋根瓦が飛び、ガラス窓が割れる。ビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木は幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると、道から吹き落とされる。

F2： 50～69m/s（約 7 秒間の平均）

住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、汽車が脱線することがある。

F3： 70～92m/s（約 5 秒間の平均）

壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車はもち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半折れるか倒れるかし、引き抜かれることもある。

F4： 93～116m/s（約 4 秒間の平均）

住家がバラバラになって辺りに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1 トン以上ある物体が降ってきて、危険この上もない。

F5： 117～142m/s（約 3 秒間の平均）

住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などがもち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。